

働く外国人「楽に」意思疎通

九工大生、日本語学習アプリ開発に力

現場の声反映、実用化目指す

産学官プロジェクト

九州工業大情報工学部(飯塚市)の学生2人が産学官連携プロジェクトで外国人向けの日本語学習アプリの開発に取り組んでいる。市内の外国人労働者実際に使ってもらい、使いやすいことや効果を検証中。現場の声を取り入れ、改良を重ねながら実用化を目指している。



外国人従業員からアプリの感想を聞く九州工業大の学生(右の2人)

プロジェクトは、同大の学生がチームで市内の中小企業を訪問し、発見した課題の解決方法を探るもの。2025年度から試行的にスタートした。

2人は大津愛莉さんと為永心花さん。いずれも2年。外国人労働者が働く現場でよく使う用語と説明文を登録しておけば、会話の中から自動で検出。リアルタイムで画面に表示され、音声で聞くこともできる。機械翻訳を利用しており、英語や労働者の母国語にも対応できる。アプリ名は「ことラク・サポート」と命名。「言葉を楽に伝えよう」という意味を込めた。

1月、インドネシアやミャンマー出身者を含め計15人の外国人が働く水産加工会社「サンユーフーズ」(同市太郎丸)で課題を聞き取りした。アンケートから言語の違いによる意思疎通に課題があることが分かり、日本語学習アプリの開発を思い付いた。

6月23日には、開発中のアプリを外国人2人に携帯

電話で使ってみてもらった。ベトナム出身のグエン・ティ・フォン・アインさん(25)は「100%正しいわけではないですが、便利です」と感想を伝えた。「作業内容を説明して『分かった』と応えても、実際には伝わっていないケースがある」と話した清原憲祐社長(64)は「アプリで手軽に用語を調べて認識のずれが解消されれば、管理者にとってもメリットがある」と期待を寄せた。

カニやエビといった水産物を常時扱うため、作業場で携帯電話を使う外国人労働者は少ないという。大津さんは「手がふさがっている状態でも使えるようにして、より現場で役立つアプリにしていきたい」と実用化への意欲を見せた。

プロジェクトを主導する中基隆教授(51)は「ただ課題を調べて分析するだけでなく、成果物を納品するまでが狙い。プロジェクトは学生の大きな成長につながるはず」と意義を語った。(中山雄介)

(金)午後5時半〜8時 飯塚市津島の陸上自衛隊飯塚駐屯地 0948(22) 7651。30店舗以上の露店が並ぶほか、駐屯地の音楽隊による吹奏楽演奏、稲築志耕館高の郷土芸能部による和太鼓演奏などのステージイベントがある。午後8時ごろから打ち上げ花火が上がる。写真は一昨年。荒天時は25日に延期。



筑豊博物館研究会 夏の自然観察会 26日(日) 午前9時10分、嘉麻市千手の古処山キヤンプ村「遊人の杜」集合。植物、昆虫、野鳥などを観察する。長袖、長ズボン、ぬれ

てもよい靴を。弁当、水筒、タオル、筆記用具、雨具などは持参。参加費(資料代と保険代を含む)は中学生以上200円、小学生以下100円。17日午後5時までに飯塚市立飯塚図書館 0948(22) 5552に申し込む。子ども連れ限定で先着20人程度を募集。雨天時は8月2日に延期。研究会の久保山さん 090(8351) 6578。

田川

Summer March 11日(土) 午前10時〜午後4時、香春町探銅所のリストランテエスポワール。ハンドメイドや雑貨、占い、ワークショップなど23店舗が出店。クレープやかき氷などの

直 鞍

直方市石炭記念館開館記念日 19日(日) 午前9時〜午後5時半(入館は同5時まで)、直方市直方の同館 0949(25) 2243。20日に開館55周年を迎えるのを記念し、石炭を燃やす体験(雨天時中止)や敷地内に保存されている蒸気機関車(SL) C11形131号機の乗車体験、救護練習所模擬坑道の見学ができる。入館無料。

二胡(にこ)×揚琴(コンサート)×中国民族楽器の世界 8月1日(土) 午後2時開演、小竹町勝野のこたけまち絵本館木うた。飯塚市の二胡奏者、梶原香織さんと熊本市の揚琴奏者、周曉丹さんによるコンサート。写真はチラシ。「華花叙事曲」「蘇州夜曲」など7曲ほどを演奏し、中国民族楽器の魅力を紹介する。チケット代2500円(当日は500円増し)、ワンドリンクのオーダーが必要。梶原さん 090(5384) 6408。

夏を彩る 平和音楽祭 A Peace Music Festival 2025
2026.7.12(土) 香春町町民センター

2026年 8月1日(土) 14:00開演/13:30開場
二胡×揚琴 コンサート
「華花叙事曲」「蘇州夜曲」など7曲ほどを演奏し、中国民族楽器の魅力を紹介する。